

平成30年9月5日

松阪市議会
中島清晴議長

海住恒幸

TRC セミナー

「【自治体財政を見る眼】 地方財政の状況と決算審査のポイント解説」参加報告

セミナー開催日時 平成30年8月24日（金）
午後1時30分～午後4時30分
会場 図書館流通センター中部支社研修室
（名古屋市中区丸の内2-2-28）
主催 図書館総合研究所

記

講師は、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授の稲沢克祐氏。稲沢氏は、群馬県職員として、財政課などを経験ののち、研究者への道を歩まれた経歴の持ち主なので、自治体の実務を知る人であるので、決算審議に先立って受講したいと考えた。

約3時間の講座で、講義の柱は次の通りです。

- 1、地方自治体の環境変化
 - (1) ストックサイクルの変化
 - (2) 公共施設の老朽化・余剰化の現状
- 2、地方財政の姿
 - (1) 財源の比重
 - (2) 歳出の特徴
 - (3) 財源の種類
 - (4) 財政自主権から見た財源の種類
 - (5) 地方財政の中長期的展望
- 3、決算審査の勘どころ

- (1) 予算と決算
- (2) 決算審査における着眼点
- (3) 財政分析から財政構造をつかむ

講師は、最初の20分で話す内容の全体をざっと語ることで、受講者がいまどういう流れの中にいるかをわかるようにしたうえで、個別の内容についての解説に入りました。理解を助けるうえで優れた方法だと思いました。

1、地方自治体の環境変化

さて、講義の内容ですが、冒頭に、「ストックサイクルの変化」を持ってきたのは、平成27年度より導入された新会計制度の趣旨を理解しながら自治体財政に対する理解を深めなければならないという意味からなのかもしれません。つまり、財政を見る眼としてインフラ管理の問題が欠かせないことを示したのだと思います。そこが、今回の講座が、財政の基礎を理解するための「イロハ」よりも、現代の自治体が置かれている状況の中から議員として財政の何を見ることが大切であるかを伝えるための設定だったのではないのでしょうか。

2、地方財政の姿

この項では、財源に見る財政自主権等の解説があったが、一般財源と特定財源の違いを理解していれば済む話でした。

3、決算審査の勘どころ

決算審査において見落とすことのないよう定石を整理していただいていた。基本的な視点が多い中でしたが、冒頭の講義と関連して、借金の見方として資産老朽化比率を下げることで将来負担比率の上昇を抑えることを念頭に置かなければならないこと、また、基金残高について余裕資金と見るのではなく施設の更新に向けたストックと考えるべきことという点が勘どころととらえた。

以上